町田市景観計画による色彩の基準

景観計画による届出対象行為と規模

【建築物の建築等】

建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更で次のいずれかに該当するもの

・高さ≧10m
・集合住宅で戸数が9戸以上のもの
・延べ面積≧1,000㎡

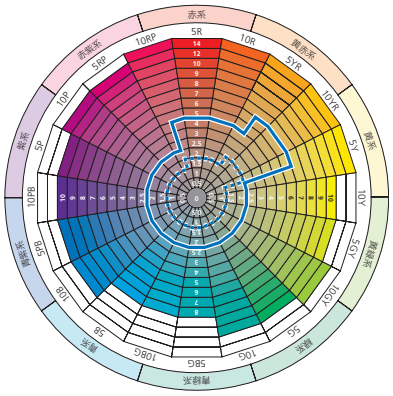
【工作物の建設等】

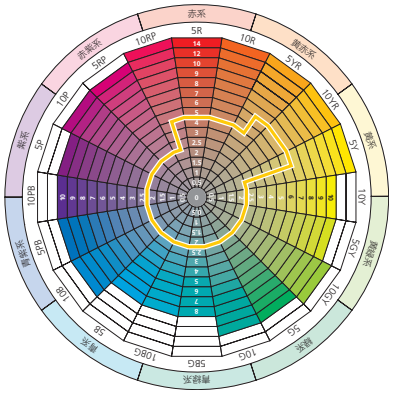
工作物の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更で次のいずれかに該当するもの

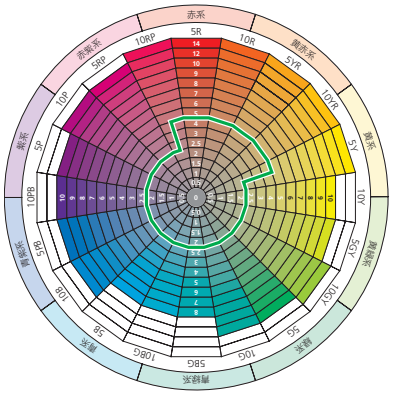
・高さ≧10m　など

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	4以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	6以下
		8.5以上の場合	2以下
	その他	4以上8.5未満の場合	2以下
		8.5以上の場合	1以下
強調色	0R～4.9YR	——	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色（勾配屋根）	0R～5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

色相ごとの彩度許容範囲



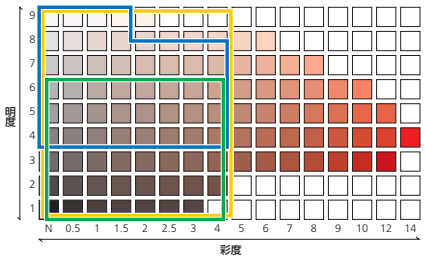




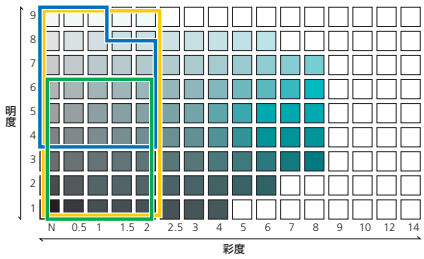
凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲（外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択）
- 強調色の使用可能範囲（外壁各面の1/5以下で使用可能）
- 屋根色の使用可能範囲

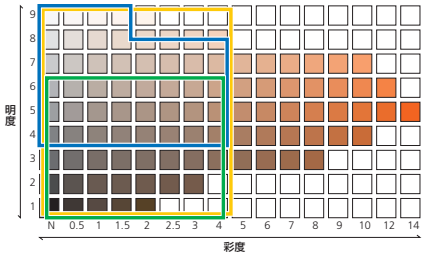
R（赤）系の色相



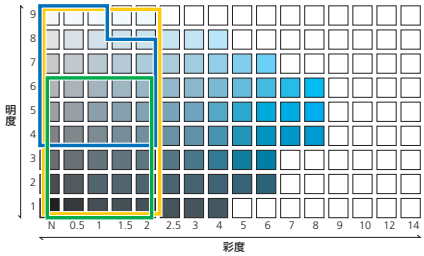
BG（青緑）系の色相



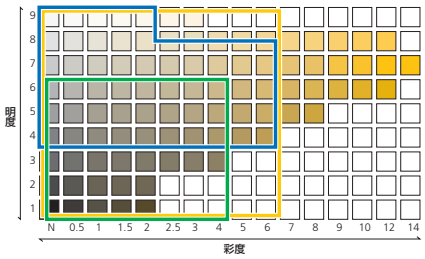
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



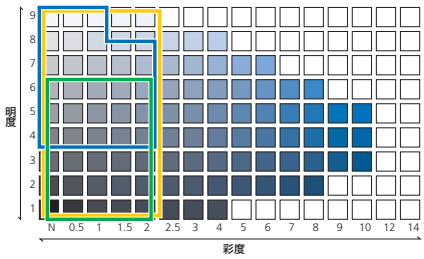
B（青）系の色相



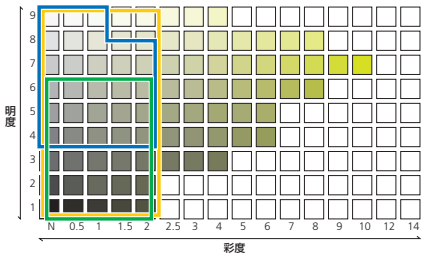
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



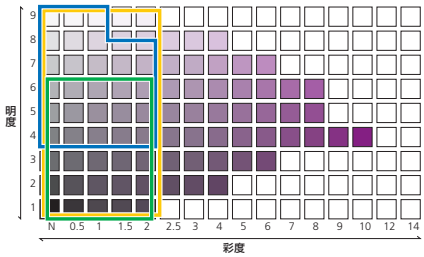
PB（青紫）系の色相



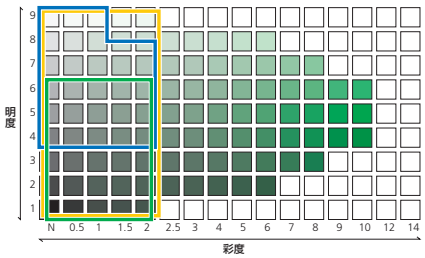
5.1Y（黄）系～GY（黄緑）系の色相



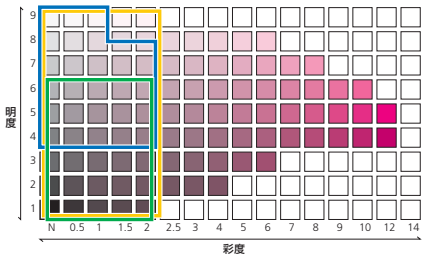
P（紫）系の色相



G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



屋外広告物の景観形成の方針

町田市景観計画では、屋外広告物の色彩等について、ゾーン・地区ごとに次のような方針を定めています。

屋外広告物の色彩は、その機能を満たすためにある程度目立たせる必要もありますが、設置場所や数量、表示内容や配色などによっては、景観を阻害する要因にもなりかねません。

町田市の景観を彩る重要な要素のひとつです。色彩の検討にあたっては、宣伝広告媒体としての機能と景観との調和を考慮し、地色に高彩度色を用いることを避けるなど、その表現が過剰にならないように配慮が必要です。

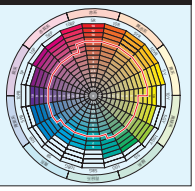
地域	景観計画における屋外広告物の方針
丘陵地ゾーン	・屋外広告物は、丘陵地の自然景観を阻害しないよう、規模や高さ等を抑えるとともに、位置や色彩などの表現に配慮する。 ・規模の大きい屋外広告物や建築物の屋上に設置する屋外広告物については、建築物との一体性のある色彩表現に配慮するとともに、その地色に高彩度色を用いることを避ける。
住まい共生ゾーン	・屋外広告物は、落ち着いた住環境を阻害しないよう、規模や高さ等を抑えるとともに、位置や色彩などの表現に配慮する。 ・規模の大きい屋外広告物や建築物の屋上に設置する屋外広告物については、建築物との一体性のある色彩表現に配慮するとともに、その地色に高彩度色を用いることを避ける。
にぎわいゾーン	・屋外広告物は、周辺のまち並みから突出しないよう、規模や高さ、位置などに配慮するとともに、色彩や意匠について過剰な表現を避ける。
小野路宿通り景観形成誘導地区	・屋外広告物の色彩は、地区の歴史や自然を生かし、積極的に木材を用いるなど風格を感じさせる落ち着いた表現とし、その地色に高彩度色を用いることを避ける。
町田駅前通り景観形成誘導地区	・屋外広告物の色彩は、品格あるまち並みから突出しないよう配慮し、特に規模の大きい屋外広告物や建築物の高層部、屋上に設置する屋外広告物については、建築物との一体性のある色彩表現に配慮するとともに、その地色に高彩度色を用いることを避ける。
多摩境通り景観形成誘導地区	・屋外広告物の色彩は、落ち着いたまち並みから突出しないよう配慮し、特に規模の大きい屋外広告物や建築物の屋上に設置する屋外広告物については、建築物との一体性のある色彩表現に配慮するとともに、その地色に高彩度色を用いることを避ける。

凡例

地色：　屋外広告物の表示面において、全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のこと。

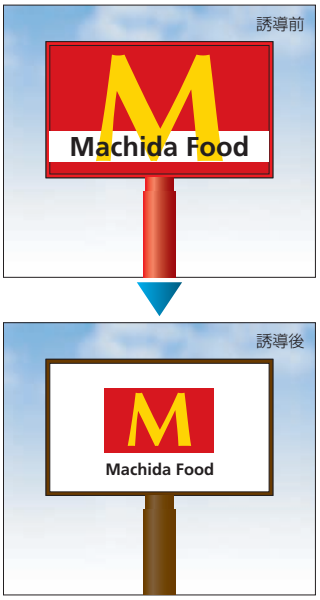
高彩度色：赤や黄、緑、青、紫などの派手な色彩のほか、各色相の最高彩度のおおむね2/3を超える鮮やかな色彩のこと。

高彩度色のイメージ：右図のうち赤い枠の外側にある色彩

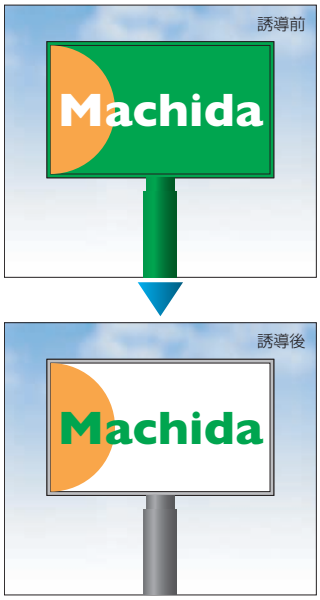


景観に配慮した屋外広告物のイメージ

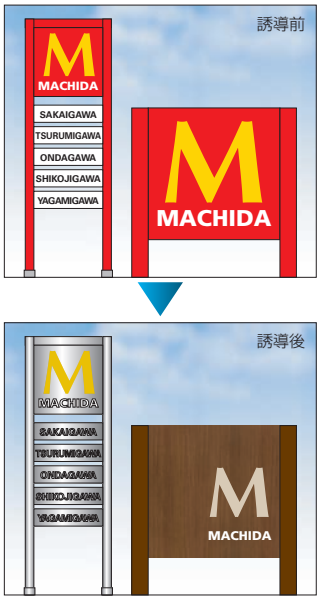
高彩度色の面積を抑える



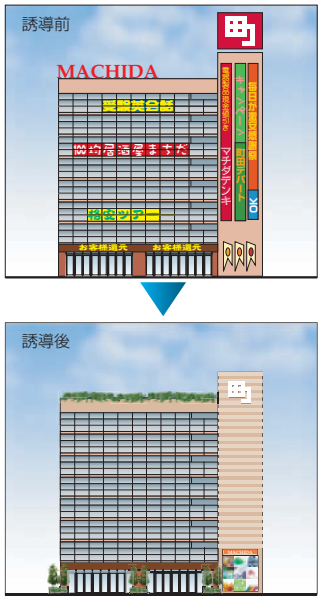
文字色と地色を反転させる



落ち着いた地色や素材色を用いる



集合化し情報の質や量をそろえる



公共施設の色彩の考え方

公共施設の色彩の基本的な考え方

ここでは、道路、河川、公園等で国または公共団体が執行するものを主な対象とします。公共施設の新設にあたっては、既存の景観との調和を図りながら、地域の自然や歴史などを生かしたり、地域の新しい顔となるような新しいデザインを導入するなど、周辺のまち並みを先導する質の高い色彩を検討することが大切です。

公共施設の色彩選定にあたっては次のような視点が必要です。

- **1 総合性：個別対象ばかりに目を向けず、トータルな景観の充実を目標として関係機関の連携のもとに色彩を検討する。**
- **2 地域性：周囲の景観資源や土地利用等を加味し、必要に応じて市民の意向を採り入れ、地域にふさわしい色彩を選定する。**
- **3 一貫性：新規事業では十分な検討を行い、色彩の選定根拠を明らかにする。また、継続事業では従前の色彩を継承する。**
- **4 普遍性：新しい技術等を採り入れながらも、一過性の流行にとらわれることなく、普遍性のある色彩選択を基本とする。**
- **5 親和性：路面舗装や柵、小規模な橋梁などは、周囲になじむ落ち着いた低彩度色を基本とし、背景としての景観を整える。**

道路及び道路上工作物等の色彩

路面舗装の色彩

路面舗装の色彩は景観の中で非常に大きな面積を占めることから、地域の景観の背景となる落ち着いた色彩を基本に選定し、過剰なパターン貼りなどは避けるようにします。

落ち着いた暖色系・低彩度色でまとめた路面舗装の例

柵類、柱類の色彩

防護柵や照明柱などの色彩は、周囲のまち並みの状況等を加味し、[景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン（国土交通省）]（下表参照）などを基本に検討します。

基本とする色の名称	標準マンセル値
ダークブラウン（こげ茶色）	10YR2.0/1.0程度
グレーベージュ（薄灰茶色）	10YR6.0/1.0程度
ダークグレー（濃灰色）	10YR3.0/0.2程度

景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインによる基本色

配電盤等の色彩

柵類や柱類などと色相や色調をそろえ、落ち着いた色彩でまとめることが基本です。設置場所によって、低明度色は威圧感を与えるため、避けた方がよい場合があります。

背景のみどりと調和したダークブラウンの配電盤

橋梁等河川関連の公共施設の色彩

橋梁等の色彩

小規模な橋梁等は、周囲になじむ低彩度色を基本とします。また、コンクリートや石材等の素材色を生かし、水辺の自然と調和させることも大切です。

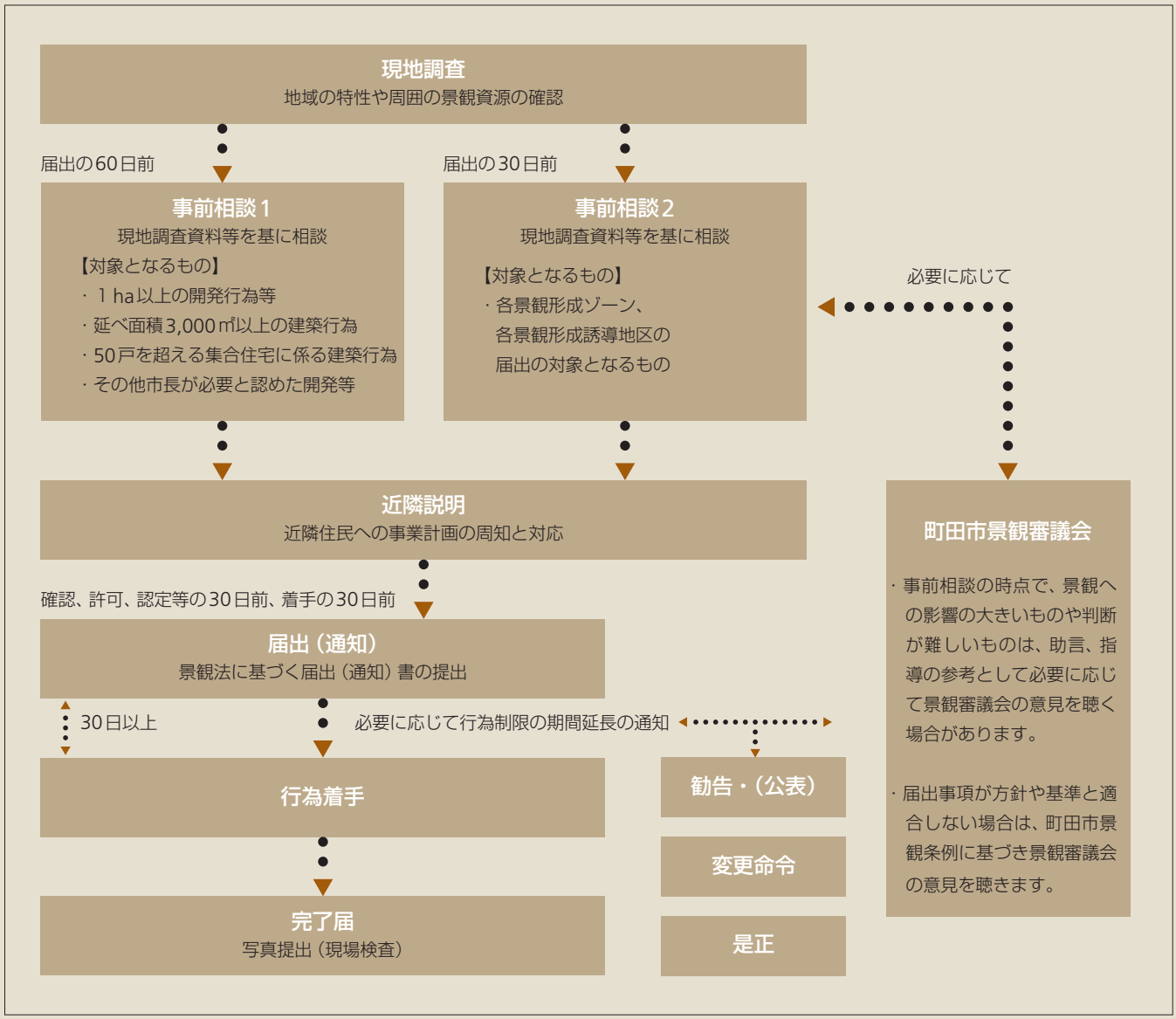
桜並木に同化した落ち着いた柵や橋梁の色彩（成瀬・恩田川）

柵類の色彩

水辺の自然が生き生きと映えるように、落ち着いた低彩度色を基本とします。

周囲の自然を引き立てる木製のデッキや柵（小山田・鶴見川）

事前相談・届出（通知）の流れ



町田市景観色彩ガイドライン

Color Scape Guidelines for Machida City

● **発行年月**

2010年3月

● **発行者**

町田市　都市づくり部　まちづくり推進課

〒194-8520 町田市中町一丁目20番23号

tel.042-722-3111（代表）

URL　http://www.city.machida.tokyo.jp

● **刊行物番号**

09-88

● **編集・印刷**

株式会社カラープランニングセンター

色彩の届出にあたっては、使用予定の外装材料の色彩について、できるだけマンセル値で提示するようにしてください。
マンセル値による届出が困難な場合は、外装材料のサンプルなど、できるだけ正確な色彩を提示してください。

なお、この冊子ではできるだけ正確な色再現を心がけましたが、印刷物によるため、実際のマンセル値と図版等の色彩が異なる場合がありますのでご注意ください。